

製品名: CD166 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08245**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	ALCAM
別名	ALCAM; MEMD; CD166 antigen; Activated leukocyte cell adhesion molecule; CD166
遺伝子 ID	214.0
SwissProt ID	Q13740
免疫原	抗血清はヒト ALCAM の C 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 481-530

背景

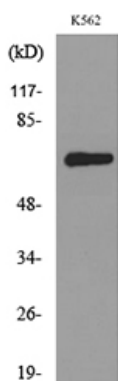
この遺伝子は、活性化白血球細胞接着分子 (ALCAM) をコードします。これは CD166 (分化クラスター 166) としても知られ、細

胞外ドメインに5つの免疫グロブリン様ドメイン (VVC2C2C2) を持つ免疫グロブリン受容体のサブファミリーに属します。このタンパク質はT細胞分化抗原CD6に結合し、細胞接着および遊走のプロセスに関与しています。異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションがみついています。[RefSeq 提供、2011年8月]、ドメイン：CD6結合部位はN末端のIg様ドメインにあります。機能：CD6に結合する細胞接着分子。異好性および同好性相互作用を介してニューロンによる神経突起伸長に関与します。活性化白血球へのT細胞およびB細胞の結合、ならびに神経系細胞間の相互作用において役割を果たす可能性があります。類似性：Ig様V型(免疫グロブリン様)ドメインを2つ含む。類似性：Ig様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを3つ含む。組織特異性：脾臓、胎盤、肝臓、そして肝臓では弱い発現を示す。活性化T細胞、B細胞、単球、胸腺上皮細胞で発現する。脳のニューロンで発現する。腫瘍細胞株では限定的な発現を示す。転移性の高いメラノーマ細胞株で優先的に発現する。

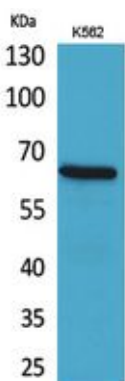
研究分野

細胞接着分子 (CAM)

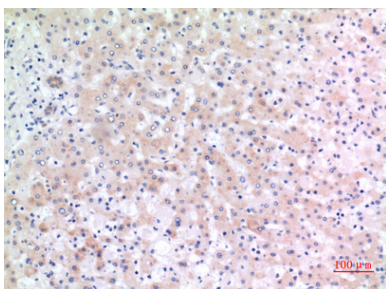
画像データ



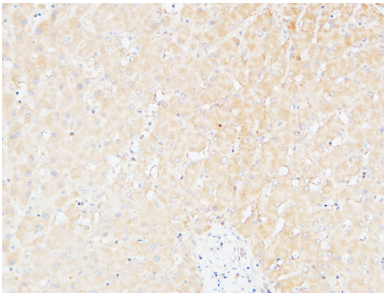
ALCAM 抗体を使用した K562 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。



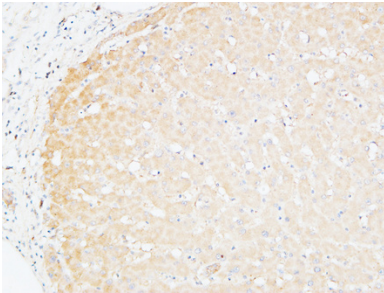
CD166 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



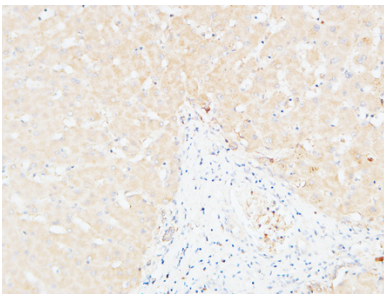
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



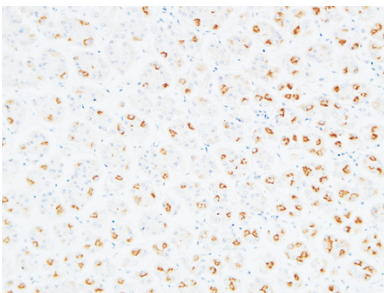
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



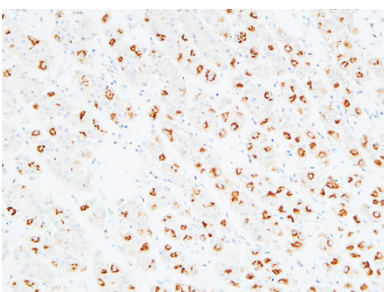
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



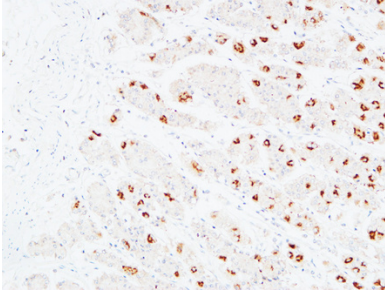
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。